

令和7年度 2月号

めいいか

令和8年1月31日
文京区立明化幼稚園

劇的表現の中で育まれる姿

副園長 山下 美幸

暦の上では立春を迎えようとしています。まだまだ寒さが厳しい日が続いていますが、一年の締めくくりの学期を迎え、1月31日に年中組と年長組は発表会を行いました。練習の様子を見てみると、「こんなに表現豊かに演じることができるようになった!」「セリフがスラスラ出ていて同じ役の友達をリードするようになっていく!」などの子どもたち一人一人の成長を、そして、学年としての一体感を感じ、大きく成長を感じることができました。年長組は、昔話の「ももたろう」を題材に子どもたちから出てきたアイデアを盛り込んだ創作劇を行いました。劇には、セリフが必要ですが、このセリフも教師が考えて決めるのではなく、子どもたちから引き出した言葉をセリフとして作っていました。

幼稚園教育要領の中に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として10の姿が提示されています。これは「幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼稚園教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿」であり、特に年長児の後半に見られるようになる姿です。10の姿とは、「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」を示します。この10の姿から、年長児の取り組みを見ていくと、自分の思いを言葉で伝えながら、セリフを考えて話したり、役になりきって表現したりする姿からは、「言葉による伝え合い」や「豊かな感性と表現」の育ちが感じられます。また、友達と目的を共有しながら、意見を出し合い、劇に必要な衣装や大道具・小道具を作ったり、役や場面に応じた動きを作ったりした過程には、「協同性」や「道徳性・規範意識の芽生え」が凝縮されています。「どうすればもっと良くなるか」と工夫する姿は、まさに「思考力の芽生え」そのものです。劇の完成度以上に大切なのは、仲間と試行錯誤しながら一つの目標へ向かう過程です。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が数多く詰まっていると感じました。これらは、小学校以降の学習や生活にもつながる重要なものです。これは、年長組の取り組みだけではなく、年中組・年少組の取り組みからもこのような力の芽生えが育まれていきます。今年度も残り少ない日数となりましたが、幼児一人一人が力を発揮し、自分の成長を実感し、進級や就学への期待が高まるように努めてまいります。保護者の皆様、地域の皆様、よろしくお願いいたします。



年中組
「もぐらバス」の劇遊び。手作りお面をかぶってなりきりました。



年長組
「ももたろうとゆかいななかまたちのだいぼうけん」の劇。カワソウが登場でユーモアたっぷりです。